

市民の声とインターネット

吉村順子

junko@suehiro.nakano.tokyo.jp

北京までボランティアに

インターネットの立ち上げと並行して、もう1つのプロジェクトを進めているので、今回はそちらの報告です。

私はここ数年にわたって、女性の権利や性差別、子どもの権利などの人権問題に関心をもってきました。学生時代はノンポリでしたが、子どもをもうけ、学校や保育園と関わる中で、しだいに問題意識をもつようになってきました。つい最近、あるMLで重大な人権侵害の被害者になり（信頼していた人にごくプライベートな情報を意図的に開示されてしまった）こうした問題はやはり日常的にあるものなのだという認識を新たにしました。

さて、今年は世界中の女性関連問題に関心のあるNGO（非政府組織）の代表者が一堂に集い、アピールなどの情報交換や、より具体的な研究成果を発表しあい、自分たちの行動計画や提言をまとめるチャンスがあります。

中国の北京で、8月末から9月にかけて開催される「国連世界女性会議」のNGOフォーラムがそれです。一般の参加申し込みは4月末で締め切られましたが、私は2人の女性とチームを組んで会議を支えるボランティアスタッフとして参加できるように申し込みをしました。そして、同時に関係者にメールでコンタクトを取りはじめました。

友人の1人は数が国語を自由に操れます。仕事は女性に関する情報提供をしており、1年がかりの努力の末に電子メールを自由に使いこなせるようになりました。もう1人はある企業でpost masterを数年間務め、最近退職したばかりの人です。ほとんどのメーカーのUNIXマシンを、立ち上げからネットワーク接続・維持まで管理していたという、頼もしい人です。退職後のリハビリのために1年くらいボランティアして過ごそうと思っていたとかで、迷わず「北京までいっしょにボランティアに行こう」と誘ってしまいました。

このチームでちょっと頼りないのが私ですが、北京から日本へ向けての情報発信や、現地会場で日本語の話せるネットワークスタッフがいたほうが都合のいいこともあるでしょう。何といても、日本からの一般参加者は1万人をゆうに超えると言われています。会場内に設置されるコンピュータネットワークは参加者に開放されますが、1人でも多くの日本からの参加者に触れていただきたいと思います。

ところが、先日ニューヨークで開かれたNGOフォーラムの準備

会の直後、北京の会議運営側から会場を変更したという通知がありました。政府間会議は市内で行われます。

NGOフォーラムは政府間会議の会場のすぐそばに確保しており、数万人収容という規模のはずでした。それが屋内収容人数が1700人とかいう郊外のキャンプ場のような施設に変更されたのです。何万人ものミーティングはどこでやればいいのかとNGOフォーラム事務局が問い合わせたら、「屋外でしなさい」という返事だったそうです。

もし本当にそのような場所でしたら（さすがに電気は来ているでしょうが）海外とのIP接続環境など夢のまた夢という状況が想定されます。私たちが連絡をとっているグループの責任者からも、コンピュータやネットワーク関連スタッフへのピザの発給が危ぶまれているといった情報が届いています。インターネットを恐れているのか、元気な女性たちを恐れているのかよくわかりませんが、こうしたやりかたに対して北京筋へ抗議のFAXを送りたい人は、

To: majordomo@iijnet.or.jp
get g-brain 2254

というメールを送ってください。抗議FAXのフォームが返送されます。ネットワークからの呼びかけと、実際の行動が結び付くようになると、もしかしたら世界が変わる日がちょっとだけ手元に引き寄せられるかもしれません。

私の関わるもう1つのプロジェクト「インターVネット」は阪神淡路大震災から100日を経過した4月末をもって、状況の変化に対応するため、運営委員会などの『組織部分』は発展的に解散しました。後継のプロジェクト名は「VCOM」といいます。この原稿を書いている時点ではまだ詳しいことは決まっていませんが、5月末にはタイムスケジュール程度の発表ができるよう準備しています。

VCOMは大勢の人の関わるプロジェクトなので、震災直後に「有志数人が走りながら考えた」やりかたとは異なり時間がかかりますが、私は意思決定権のある運営委員という責任ある立場で金子郁容氏、鍋木孝昭氏などとともに、最低数年はVCOMに参加します。

いろいろな発表はtnn.interv.infoにも流します。なお、BBS間の情報共有システムInterVnetは変わりなく維持できるよう大勢の方や組織と協力する体制ができつつあります。どうぞよろしくお願ひします。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp